

大阪大学グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」  
「コンフリクトの人文国際研究」セミナー 第33回  
大阪大学グローバルコラボレーションセンター  
GLOCOL セミナー 第36回

「移行期正義の現状と課題」：  
国連旧ユーゴスラビア国際刑事裁判所（ICTY）とスレブレニツァ事件を事例に

講師：長 有紀枝（立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授）

要旨：

紛争後社会の平和構築の現場で、移行期の正義が大きな課題となっている。戦争犯罪人の処罰と政治的安定、あるいは「正義」と「和解」はどちらも重要事項でありながら、様々な矛盾や緊張関係をはらむことが指摘されて久しいが、ジェノサイドなど大規模な人権侵害の真相の究明（あるいは歴史認識・歴史的事実の構築）と、正義（法の裁き）も必ずしも一致しないことが明らかになっている。本報告では、「第 2 次世界大戦以来欧州で最悪の虐殺」と称され、また ICISS（介入及び国家主権に関する国際委員会）の『保護する責任』論誕生の背景の一つともなったスレブレニツァ・ジェノサイドを事例に、移行期正義の現状と課題について論じていく。さらに、スレブレニツァをダルフルールやルワンダと比較し、ジェノサイドの予防の方策についても議論する。

講師紹介：

長 有紀枝（おさ ゆきえ）。立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授。認定 NPO 法人難民を助ける会理事長・認定 NPO 法人ジャパン・プラットフォーム共同代表理事。早稲田大学政治経済学部卒。同大学院政治学研究科修士課程修了後、外資系企業勤務を経て、1991 年に難民を助ける会に参加。2003 年まで同会職員として、ボスニア、チェチェン、アフガニスタン、ミャンマー、カンボジアなどの緊急人道支援、障害者支援、地雷対策とその廃絶活動に携わる。2004 年から東京大学大学院「人間の安全保障」プログラム博士課程在籍。2007 年 6 月に博士号取得。著書に『スレブレニツァあるジェノサイドをめぐる考察』（2009 年東信堂）ほか。専門は人間の安全保障と平和構築、ジェノサイド研究、国際人道法など。

日時：2009 年 7 月 9 日（木） 16:30 ～ 18:00

会場：大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス） 東館 1 階 105 教室（参加無料）

東館は、万博外周道路側の別館です。大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）への交通アクセスは <http://www.hus.osaka-u.ac.jp> をご参照ください。

お問い合わせ先：

大阪大学大学院人間科学研究科人類学研究室

e-mail: [globalra@hus.osaka-u.ac.jp](mailto:globalra@hus.osaka-u.ac.jp)

電話 06-6879-8085

06-6877-5111

